

コネクションズ ー海を越える憧れ、日本とフランスの150年

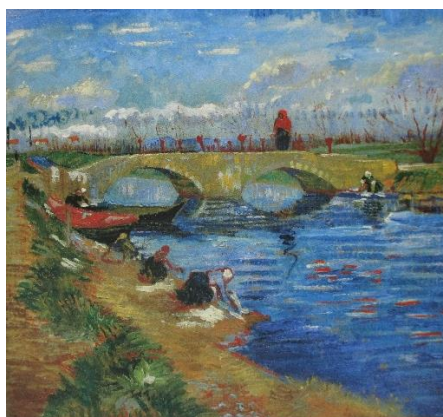
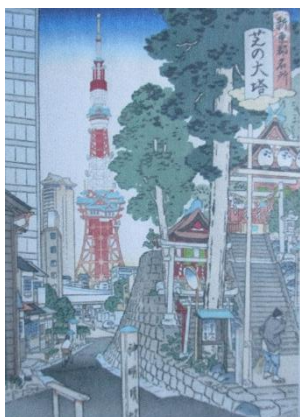
ポーラ美術館（箱根・仙石原） 2020.11.14～2021.04.04



19世紀後半から20世紀初頭にかけて、日本の「浮世絵」や「工芸品」は、フランス芸術に大きな刺激を与え、「モネ」や「ゴッホ」といった芸術家たちの重要なインスピレーション源となり、“ジャポニズム時代”の到来となった。

正に時を同じくして、「黒田清輝」を始めとする多くの日本人画学生がフランスへ留学し、彼らの学んだ美術はその後の日本近代美術の基礎となつたとされている。

本展は、異国の美に想像力をかきたてられて、「モネ」から「黒田清輝」「フジタ」「森村泰昌」へと当館が収集している質の高いコレクションを軸に、フランスと日本の「美の往還」を辿る誠に贅沢な展覧会の企画である。



山口晃 《新東京都名所「芝の大塔」》木版画(手刷り) 左

画伯による“現代の浮世絵”「新東京都名所」シリーズ第2弾の作品で、東京のランドマークとして今なお健在の東京タワー、芝周辺の何気ない日常の風景の中に見せる姿を、独特の世界観で描いた版下絵を元に、江戸の浮世絵と同様、彫師が版を彫り摺師が一色ずつ和紙に摺り重ね色鮮やかに仕上げている。

フィンセント・ファン・ゴッホ 《ヴィゲラ運河にかかるグレーズ橋》 右

本作品は、南仏プロヴァンス・ローヌ河畔・アルルに着後間もなく制作され、橋と土手の黄色、空と運河の水面の青色に加え、橋上人物や奥に広がる低木林、ボート、洗濯女たちに、水面の煌にアクセントの赤が使用されている。